

オウム真理教対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

平成23年度 烏山地域オウム真理教 対策住民協議会 総会開催

平成23年度烏山地域オウム真理教対策住民協議会総会が、6月21日烏山総合支所2階会議室にて開催された。来賓として世田谷区から、板垣副区長、河合烏山総合支所長が出席。住民協議会は、海老澤会長、倉本名誉会長はじめ、会員多数が出席した。総会は海老澤会長の開会挨拶で始まり、22年度事業・決算・監査の各報告がおこなわれた。

事業報告では、監視活動、抗議デモ・学習会など、地域住民が多数参加できる活動形態の重要性が語られ、協議会ニュースの定期発行、会の財政を支える募金活動や、リサイクルバザーなど、多彩な活動が地域住民の支持を受けてきたと報告された。

事業・決算・監査の報告が全員の拍手で承認され、平成23年度事業計画・予算案の提案へと議事が進められた。

事業計画では多彩な諸活動と共に、来年1月に期間が満了する「観察処分」期間更新の署名活動が今年度の重点課題と報告がされ、質疑応答後、事業計画・予算が全員の拍手で承認された。海老澤会長より、一身

上の都合により、会長を退任したいとの要望が出され、新会長に前実行委員長の田中光男氏を選出し、総会は終了した。



総会終了後、実行委員会が開かれ

「オウム真理教対策関係市町村連絡会総会」に出席した委員から、住民協議会の活動状況を、市町村連絡会に反映させる必要性が提案された。足立区入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会の抗議集会に参加した会員からは、信者が、烏山地域から足立区に転入した事に関して、活動の連帯の必要性が語られた。

足立区入谷の抗議デモに参加

6月11日(土)入谷で行われた第2回抗議デモに参加しました。足立区入谷8丁目公園に集まった住民は200人以上になり、近隣の川口・鳩ヶ谷からも参加していました。地区毎にプラカードを持ち、オウム反対の赤いのぼり旗と白いたすきを掛け、赤いはちまきをして、歩きました。

先頭に足立区長、今度の区長選で2期目当選を果たした近藤やよい区長は、住民と一緒にシユブレヒコールに拳を上げていました。広報車を先頭に約10名程の警察官

の守りの中、約1時間の行進でした。目的のアレフ施設前で抗議文を読み上げ、対面を希望したにもかかわらず、白い塀に囲われた、白い建物の窓の白いカーテンの間からは、外をうかがう人影は見えましたが、出てくる事はありませんでした。45名は居住すると見られる施設には、烏山から移動した信者もいるようです。

デモ散会後は、旧入谷南小学校体育館で集会が行われ、昨年6月12日の決起集会、30日の設立集会から1年あまりの活動報告

と、これからの活動計画が提案されました。年3回の協議会ニュース発行、20,000人目標の署名活動と要請行動、年2回の抗議デモと集会など。代表の斎藤洋一さんが、烏山の活動をしっかりと踏まえて、後についていきたいという言葉を送りました。

「オウム真理教対策関係市町村連絡会総会」開催

6月8日(水)グランドアーク半蔵門(千代田区)において、平成23年度オウム真理教対策関係市町村連絡会総会(27区市町村で構成)が開催されました。

この会議において、議長である近藤足立区長から平成22年度の事業経過等が報告され、平成23年度の活動方針として、「住民に不安を与える反社会的危険集団の活動を認めない」「オウム真理教に利益や施設を与えない」等の基本原則を再確認するとともに、さらに「団体規制法に基づく観察処分の更新を要請」し、オウム真理教の壊滅に向けた対策を引き続き強力に推進

していくことが決定されました。次に、役員改選が行われ、会長に川口市(埼玉県)、副会長に吹田市(大阪府)、監事に世田谷区と松本市(長野県)が決定され、新会長である岡村川口市長から、関係区市町村が連携しオウム真理教の壊滅に向け活発に活動していくとの挨拶がありました。

また、総会後には足立区より平成22年10月に施行した「足立区反社会的団体の規制に関する条例」の説明及び公安調査庁の田端調査第一部長からオウム真理教の現状等について報告がありました。同部長からは、主流派及び上祐派を

合わせて国内15都道府県下に32か所の施設等があり、約1,500人の信徒を有している。主流派は、「麻原回帰を推進しつつ勢力拡大に向けた取組みを強化」、「教団名を秘匿し青年層を主な対象とした勧誘活動」、「南烏山施設等を退去した出家信徒の足立区内施設への集約」等を行っている。さらに、上祐派は、「脱麻原を標ぼうするも依然として麻原の影響下にあり、麻原の修行に依拠した「エンパワーメント」が行われている。」等との報告があり、今後とも関係機関や住民の皆様方と連携を図っていききたいとの協力要請がありました。

足立区のオウム真理教拠点「新保木間」の取材記

6月13日、梅雨空の中、足立区のオウム真理教拠点、新保木間を取材しました。その拠点は、首都高速6号線を南八潮で降りてすぐの日光街道に面した4階建ての古びたビルでした。目を引くのは、窓という窓に白いカーテンがひかかっていることと玄関脇の壁一面に立体の駐輪場があり、20台位の古ぼけた自転車が上下に並んでいることでした。

例により、近所の40代半ばの中年男性2人、70歳半頃の女性に取材しました。興味深かったのは、次の2点でした。
・足立区はオウムの巣窟で、道場ではなく住まいとして普通のアパートを借り上げる形のアジトは、区内だけで数十か所はある。これは、麻原が収監されている小菅の東京拘置所に近いことが一因で、この種のアジトや拠点は、足立の先の八潮や三郷、越谷、野田と続くと、話してくれた。この話はセンセーショナルだが、足立区の場合、信者個人が居住しているアパートが10~20室あるのが実態のようだ。ただ、このようなことを近所同士で話していると思うとその関心の深さは実に興味深い。
・取材した3人ともに「オウムとは没交渉」を強調した。

70歳半頃の女性は、10年ほど前に初めてオウムがやってきた時は町内で反対運動もあったけど、ここのオウムは人の出入りが目立たず、変な声やお経も聞こえてこないの、10年も経った今は互いにあたらず障らずだと、話してくれた。

烏山からの移転者が新保木間に転居したため伺った取材では、上記の通りオウム問題の風化が顕著だった。烏山も同じく風化にさらされているが、皆で行っている監視活動でオウムを目の当たりにするたび「オウム真理教を許してはいけない」と心の中で反芻する、このことが風化の波を食い止めていると思い、帰路に就いた。



「アレフ」烏山施設から退去。「ひかりの輪」は現状のまま

オウム真理教「主流派」アレフは、2000年(平成12年)より烏山施設に集団居住していたが、3月末日で全信者の退去が判明した。(4月6日公安調査庁発表) 移転先は、当初足立区入谷との情報もあったが、同区、保木間への転入が確認された。

アレフは昨年5月、関連団体の株式会社名義で、足立区入谷に1億円で施設を購入。4階建、土地面積530平方メートル、延床面積1145平方メートル、オウム真理教所有では国内最大規模。今年2月には改装を終了、各地から信者の転入が相次いでいる。これにより足立区は、新保木間、保木間を含め、3ヶ所のオウム真理教施設が存在することとなり、4月現在で信者は約105名(公安調査庁発表)に達する。足立区は自治体初の、オウム真理教規制の条例を制定し、アレフ

との対決姿勢を鮮明にしている。

烏山地域住民はアレフが退去した事実は喜ばしいが、移転先が足立区になったことに心を痛めている。烏山地域の要求は、厄介者を他地域に移転させる「オウム真理教出ていけ」ではない。オウム真理教「解散・解体」のスローガンは、今後も変わらない。足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会とは、これからも協力し活動していく事が重要と感じる。

一方、元教祖、麻原彰晃と決別を主張している上祐派「ひかりの輪」が現状のまま残る烏山地域では、巧妙で無節操な団体との新たな闘いが始まろうとしている。

からすやま下町まつりで署名活動

梅雨の晴れ間に響くジャズの音。第2回からすやま下町まつりが6月4日(土)に行われました。世田谷文学館の南側道路を会場にして、当日は文学館も無料開放、模擬店やジャズ、ギター演奏、紙芝居等お祭り広場も賑やかでした。木々の緑あふれる会場で、心が癒されとても居心地が良かったです。

住民協議会は、「観察処分」期間更新を求める署名活動を行いました。「また、署名ですね。頑張ってください。」

「今日は募金はいいの？」と顔見知りの方も多く、とても気持ち良く署名をしていただき、当日は145筆の署名が寄せられ、とても心強く感じました。

オウム真理教に対する「観察処分」期間更新には、署名の数が大きく影響します。今回、署名活動の場を提供して下さった主催者の皆様には、心よりお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

おまつりを楽しんでいる子ども達の笑顔を見ていると、この地域を大切に守って行かなければと強く思いました。

住民協議会活動報告

6月21日(火) 烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会総会

6月27日(月) 協議会ニュース107号初校正
7月4日(月) 協議会ニュース107号再校正
7月6日(水) 事務局会議
7月12日(火) 協議会ニュース107号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。